

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-236914

(P2004-236914A)

(43) 公開日 平成16年8月26日(2004.8.26)

(51) Int.Cl.⁷

A45C 13/26

F 1

A45C 13/26

A45C 13/26

テーマコード(参考)

H

B

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号

特願2003-30390 (P2003-30390)

(22) 出願日

平成15年2月7日 (2003.2.7)

(71) 出願人 000102304

エース株式会社

大阪府大阪市中央区博労町4丁目5番2号

(74) 代理人 100072213

弁理士 辻本 一義

(72) 発明者

荒木 晴雄

大阪府大阪市中央区博労町4丁目5番2号

エース株式会社内

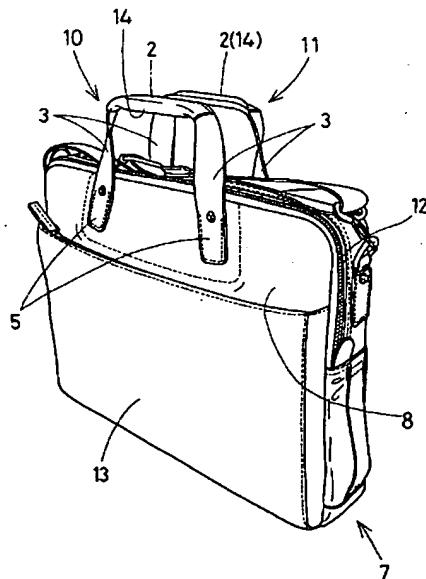
(54) 【発明の名称】 鞄用把手及び鞄

(57) 【要約】

【課題】 製造や鞄への取り付けが容易で、しかも、見栄えが悪くならず、耐久性に優れた鞄用把手及びそれを使用した鞄を提供すること。

【解決手段】 この発明の鞄用把手10、11は、基体の元の形状を扁平で握り部2の両側部3、3が略ハ字状に形成されたものとし、握り部2の表面が上方に向くように、両端部5、5の裏面を鞄7の前面8又は後面9に向けて固定することにより鞄7に取り付けられるようにしている。また、この発明の鞄7は、前記鞄用把手10、11を、前面8側及び後面9側にそれぞれ取り付けた鞄7であって、両鞄用把手10、11の握り部2、2を上下に重ねられるようにしているとともに、一方の鞄用把手10を他方の鞄用把手11より短いものとしている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

基体（1）の元の形状を扁平で握り部（2）の両側部（3）（3）が略ハ字状に形成されたものとし、握り部（2）の表面（4）が上方に向くように、両端部（5）（5）の裏面（6）を鞄（7）の前面（8）又は後面（9）に向けて固定することにより鞄（7）に取り付けられるようにしていることを特徴とする鞄用把手（10）（11）。

【請求項 2】

合成皮革のシートを、握り部（2）となる中央部が直線状で両側部（3）（3）が略ハ字状となった形状に切断することにより基体（1）が形成される請求項1記載の鞄用把手（10）（11）。

10

【請求項 3】

請求項1又は2記載の鞄用把手（10）（11）を、前面（8）側及び後面（9）側にそれぞれ取り付けた鞄（7）であって、両鞄用把手（10）（11）の握り部（2）（2）を上下に重ねられるようにしているとともに、一方の鞄用把手（10）を他方の鞄用把手（11）より短いものとすることにより、両鞄用把手（10）（11）の握り部（2）（2）を上下に重ねて手に提げて持ったときに、前面（8）側又は後面（9）側に傾かないようにしていることを特徴とする鞄（7）。

20

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、通学、通勤、ショッピング、旅行その他適宜の用途で携帯される鞄及びそれに取り付けられる鞄用把手に関するものである。

20

【0002】

【従来の技術】

従来より、手提げ鞄用の把手として、皮革や合成皮革等からなる短い帯状のものを、握り部となる部分の表面が上方に向くように、両端部の裏面を鞄の前面又は後面に向けて固定することにより鞄に取り付けられるようにした鞄用把手がある（例えば、特許文献1参照）。

【0003】

しかし、この従来の鞄用把手は、握り部の表面が上方に向くようにするために、中央の握り部を2つ折りにし、さらに2つ折りにした握り部に補強皮革を巻き付け、そして握り部と補強皮革の両側部に沿って縫着して一体化した構成としていた。

30

【0004】

そのため、製造工程が複雑となり、しかも、中央の握り部とその両側部とが大きく捩れた状態となるため、見栄えが悪く、耐久性にも問題があった。

【0005】

【特許文献1】

第3018300号登録実用新案号公報

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

40

そこで、この発明は、製造や鞄への取り付けが容易で、しかも、見栄えが悪くならず、耐久性に優れた鞄用把手及びそれを使用した鞄を提供することを課題とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】

前記課題を解決するため、この発明は次のような技術的手段を講じている。

【0008】

この発明の鞄用把手10, 11は、基体1の元の形状を扁平で握り部2の両側部3, 3が略ハ字状に形成されたものとし、握り部2の表面4が上方に向くように、両端部5, 5の裏面6を鞄7の前面8又は後面9に向けて固定することにより鞄7に取り付けられるようにしている。

50

【0009】

この鞄用把手10, 11は、合成皮革のシートを、握り部2となる中央部が直線状で両側部3, 3が略ハ字状に形成された形状に切断することにより基体1が形成されるものとすことができる。

【0010】

また、この発明の鞄7は、前記鞄用把手10, 11を、前面8側及び後面9側にそれぞれ取り付けた鞄7であって、両鞄用把手10, 11の握り部2, 2を上下に重ねられるようによっているとともに、一方の鞄用把手10を他方の鞄用把手11より短いものとすることにより、両鞄用把手10, 11の握り部2, 2を上下に重ねて手に提げて持ったときに、前面8側又は後面9側に傾かないようにしたるものとしている。

10

【0011】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の実施形態を、図面を参照して説明する。

【0012】

図1はこの発明の実施形態の鞄7の斜視図、図2は鞄7の右側面図、図3は両方の鞄用把手10, 11の握り部2, 2を上下に重ねた状態の鞄7の右側面図、図4は鞄用把手10, 11の説明図、図5は一方の鞄用把手10の説明図、図6はその握り部2の断面図、図7は他方の鞄用把手11の説明図、図8はその握り部2の断面図である。

11

【0013】

この発明の鞄7は、基体1の元の形状を扁平で握り部2の両側部3, 3が略ハ字状に形成されたものとし、握り部2の表面4が上方に向くように、両端部5, 5の裏面6を鞄7の前面8又は後面9に向けて固定することにより鞄7に取り付けられるようにした鞄用把手10, 11を、前面8側及び後面9側にそれぞれ取り付けた鞄7であって、両鞄用把手10, 11の握り部2, 2を上下に重ねられるようによっているとともに、一方の鞄用把手10を他方の鞄用把手11より短いものとすることにより、両鞄用把手10, 11の握り部2, 2を上下に重ねて手に提げて持ったときに、前面8側又は後面9側に傾かないようにしたものである。

20

【0014】

この鞄7は、合成皮革、天然皮革等適宜の素材を用いて製造されるものとしており、全体を四角形状とし、左側部の上部から上端部を通って右側部の上部に至るまで、ファスナー12により開閉自在とし、前面8側及び後面9側には、それぞれ小収納部13が設けられている。

30

【0015】

この鞄7に取り付けられる2つの鞄用把手10, 11は、その基体1が、厚さ3mm程度の合成皮革のシートを、握り部2となる中央部が直線状で、両側部3, 3が略ハ字状の形状となるように切断することにより形成されるもので、この実施形態では、さらに握り部2に隆起部14を設けたものとしている。また、一方の鞄用把手10は、他方の鞄用把手11より2センチ程度短くし、両鞄用把手10, 11を重ねたときに、両鞄用把手10, 11の両端部5, 5が揃うようになっている。

40

【0016】

鞄用把手10, 11は、図4に示したように、鞄7に取り付ける前の元の形状が、握り部2の両側部3, 3がそれぞれ20度程度の角度で曲がった略ハ字状の短い帯状となっている。

【0017】

隆起部14は、各鞄用把手10, 11の片面側において隆起するように設けられたもので、鞄用把手10, 11の基体1の握り部2の片面に、芯材15を長尺方向に添え、これを前記片面側の一端側（図6中の右端側、図8中の左端側）から他方の面の一端側まで覆う薄手の合成皮革等の生地16を当て、前記一端側を縫着することにより形成することができる。図6中の右端側、図8中の左端側が、縫着部分17となる。

【0018】

50

芯材15は、靴7に取り付けて握り部2を上下に重ねたときに下に来る靴用把手10の基体1にはその裏面6側に設け(図6)、上に来る靴用把手11の基体1にはその表面4側に設ける(図8)。芯材15は、図示したような断面三角形ないし半円形の棒状で、両各靴用把手10、11の握り部2、2を合わせたときに、隆起部14、14が断面略円形になるようにしている。

[0 0 1 9]

また、芯材15は、木製、プラスチック製等として、硬質でしっかりと握り部2を握れるものとしたり、スポンジ等としてソフトな感触が得られるようにしたりすることができる。

[0 0 2 0]

両鞄用把手 10, 11 を鞄 7 に取り付けるには、それぞれの両端部 5, 5 の間隔が握り部 2 の長さとほぼ同じになるように曲げ、両端部 5, 5 の各裏面 6 を鞄 7 の前面 8 又は後面 9 に向け、この両端部 5, 5 を鞄 7 の前面 8 側又は後面 9 側の中央上部に、縫着や各種の固定具等により固定する。各鞄用把手 10, 11 はもともと曲がった形状であるため、曲げる際に無理に力を加えて捻る必要はない。

[0 0 2 1]

このようにして砲7に取り付けられた砲用把手10, 11は、握り部2, 2が砲7の上端部より上方に位置し、また、握り部2, 2の表面4が上方に向く。そして、正面から見て各砲用把手10, 11の握り部2と両側部3, 3とが約90度の角度で曲がった態様となる。なお、握り部2と両側部3, 3との角度はこれに限定されない。

[0 0 2 2]

この鞄用把手 10, 11を取り付けた鞄 7は、図 1、図 2や、裏面 6側が現れるようにした図 5、図 7に示したように、各鞄用把手 10, 11の各握り部 2とその両側部 3, 3とが大きく揉れた状態とならないため、各鞄用把手 10, 11にほとんど皺がよらず、見栄えが良いとともに、耐久性も向上したものとなっており、頻繁に鞄 7を上下させるような使用のしかたをしても、長期間耐えることが可能である。

[0 0 2 3]

また、両砲用把手 10, 11 を同じ長さとすると、両砲用把手 10, 11 の握り部 2 を上下に重ねて手に提げて持ったときに、上に来る方の砲用把手を取り付けた側に砲 7 が引っ張られ傾くことになるが、この実施形態では、下に来る一方の砲用把手 10 が上に来る他方の砲用把手 11 よりも短いため、図 3 に示したように、両砲用把手 10, 11 の握り部 2 を上下に重ねて手に提げて持ったときに、前面 8 側又は後面 9 側のいずれにも傾かないため、持ち心地がよく、快適に使用することができる。

[0 0 2 4]

【発明の効果】

この発明の鞄用把手10, 11は、上述のような構成を有しており、製造や鞄7への取り付けが容易で、しかも、見栄えが悪くならず、耐久性に優れたものとなっている。

[0.025]

また、この発明の鞄用把手は、前記鞄用把手10, 11を使用したものであり、一方の鞄用把手10を他方の鞄用把手11より短いものとすることにより、両鞄用把手10, 11の握り部2を上下に重ねて手に提げて持ったときに、前面8側又は後面9側に傾かないよう正在するため、持ち心地がよく、快適に使用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施形態の範の斜視図である。

【図2】この発明の実施形態の鞠の右側面図である。

【図3】この発明の実施形態の鞄で、両方の鞄用把手の握り部を上下に重ねた状態の右側面図である。

【図4】この発明の実施形態の範用把手の説明図である。

【図5】この発明の実施形態の一方の駒用把手の説明図である。

【図6】この発明の実施形態の一方の靴用把手の握り部の断面図である。

【図7】この発明の実施形態の他方の鞄用把手の説明図である。

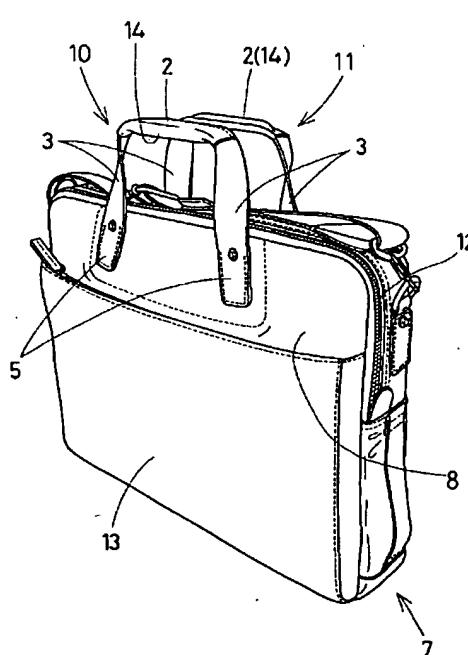
【図8】この発明の実施形態の他方の鞄用把手の握り部の断面図である。

【符号の説明】

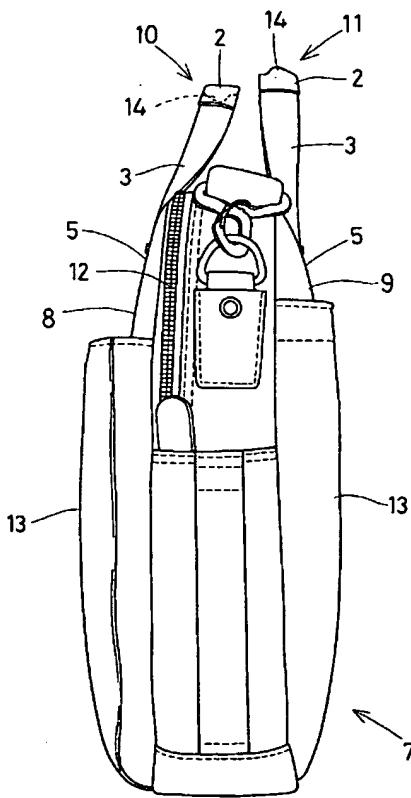
- 1 鞄用把手の基体
- 2 鞄用把手の握り部
- 3, 4 鞄用把手の両側部
- 5, 6 鞄用把手の両端部
- 7 鞄用把手の裏面
- 8 鞄
- 9 鞄の前面
- 10, 11 鞄の後面

10

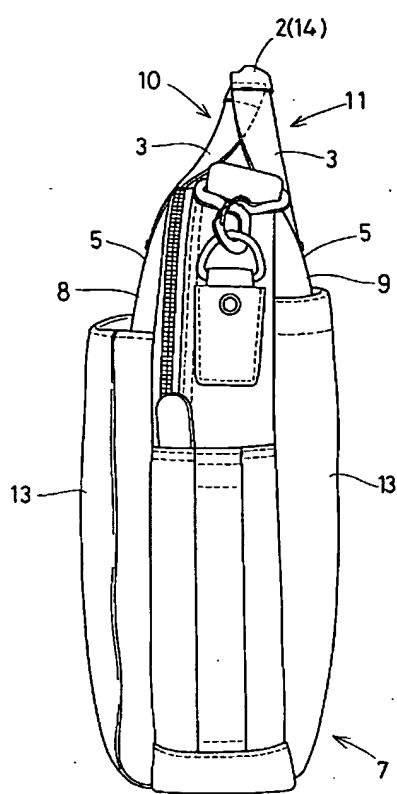
【図 1】



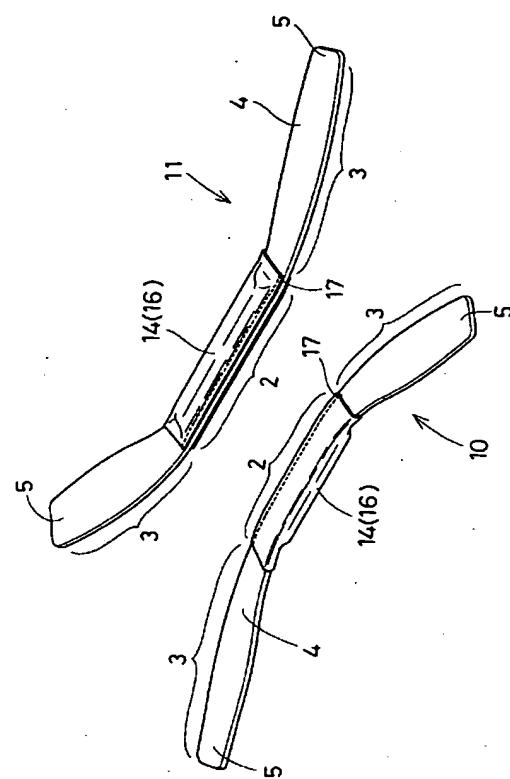
【図2】



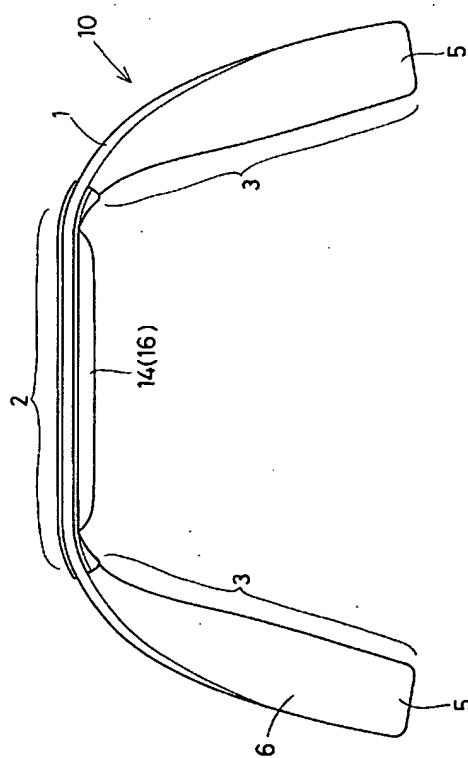
【図 3】



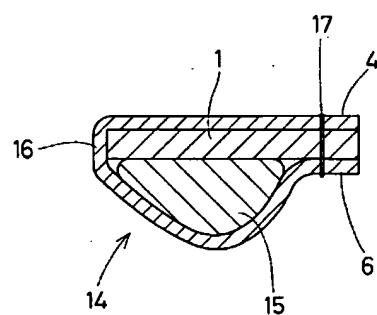
【図 4】



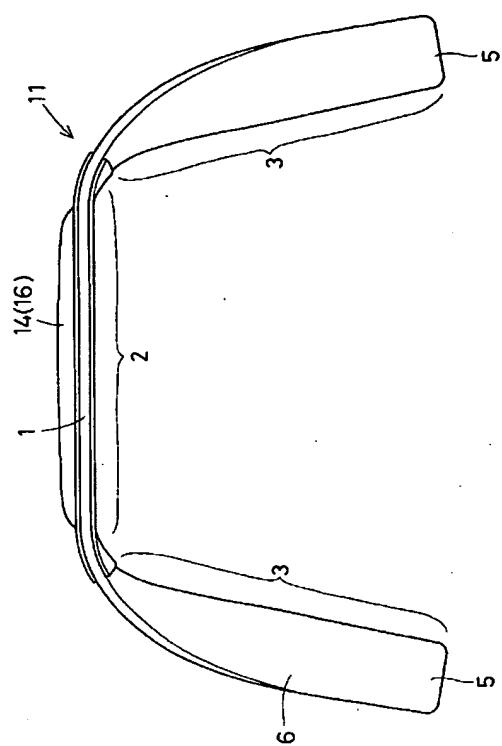
【図 5】



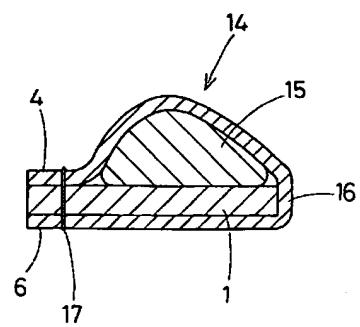
【図 6】



【図 7】



【図 8】



PAT-NO: JP02004236914A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2004236914 A
TITLE: BAG HANDLE, AND BAG
PUBN-DATE: August 26, 2004

INVENTOR- INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ARAKI, HARUO	N/A

ASSIGNEE- INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ACE KK	N/A

APPL-NO: JP2003030390

APPL-DATE: February 7, 2003

INT-CL (IPC): A45C013/26

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide durable bag handles which are easily produced and attached to the bag without hurting outer appearance, and to provide the bag using them.

SOLUTION: The base bodies of bag handles 10, 11 are originally flat, and each of the side parts 3 of each grip part 2 is formed in nearly a trapezoid shape. The rear surface of each of end parts 5 is attached to a bag 7 by allowing it to face the front surface 8 or rear surface 9 of the bag 7 for fixing, so as to turn the front surface of each grip part 2 upwards. The bag handles 10, 11 are respectively attached to the front surface 8 and the rear surface 9, so that the grip parts 2, 2 of both bag handles 10, 11 overlap.

Thus, the one handle 10 for the bag is formed to be shorter than the other
handle 11.

COPYRIGHT: (C) 2004, JPO&NCIPI